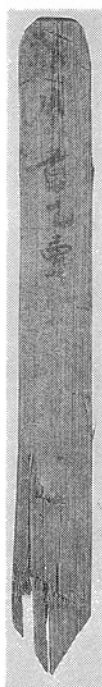


と、人名のみ記していること、荷札・付札などの一般的な木簡とは異なり齋串に類似した形態であることなどから考えると、何らかの祭祀に使用した可能性もある。

9 関係文献

梶原遺跡調査会『梶原南遺跡発掘調査報告書』（一九八八年）

（宮崎康雄）



（三田）

兵庫・宅原遺跡（豊浦地区） えいばら

- 1 所在地 神戸市北区長尾町宅原
- 2 調査期間 一九八七年（昭62）六月～十二月
- 3 発掘機関 神戸市教育委員会
- 4 調査担当者 安田 滋・山口英正
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 七世紀～一三世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

宅原遺跡は、六甲山系の北側に、武庫川の支流である長尾川によって形成された東西に長い谷の沖積地と、その南側の丘陵先端部及び低位段丘上に位置する、縄文時代後期から近世にかけての複合遺跡である。そのうち豊浦地区は低位段丘上に存在する。一九八三年より実施されている県営圃場整備事業にともなう発掘調査の結果、当地区では、九世紀前半の掘立柱建物と、

一二世紀～一三世紀前半の掘立柱建物・木組方形井戸・木棺墓・大溝等が検出された。木簡は一三世紀前半の井戸内埋土より出土した。井戸内からは、多数の土器の他に、木製品・鹿角・種子等が出土した。須恵器碗・小皿および瓦器碗の中には四二点の墨書土器が存在した。文字は「有田」が八割を占め、他に「き」「上」「中」がある。また花押あるいは呪字と思われる墨書も五点存在する。また二条の大溝内上層から同時期の墨書土器が約一〇〇点、その下層からは八世紀の須恵器蓋内面に「五十戸」と書かれた墨書土器が出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「咄呖啞(符録) □□急々如律令

〔鬼鬼カ〕

(900)×95×8 010

(安田 滋)



兵庫・長田神社境内遺跡

- 1 所在地 神戸市長田区長田町
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)四月～一〇月
- 3 発掘機関 神戸市教育委員会
- 4 調査担当者 黒田恭正・佐伯二郎
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代晩期、弥生時代後期、平安～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

長田神社境内遺跡は六甲南麓に広がる平野の西端近く、六甲山系に源を発する多くの河川の一つ苅藻川の左岸にある。周辺には



(神戸)

縄文時代から鎌倉時代の遺跡が点在し、古墳時代の居館跡の松野遺跡や、八部郡衙推定地等も含まれている。調査は、当地で進められている再開発事業にともない実施された。その結果、縄文時代晩期の土壇、弥生時代後期の住居跡・溝、平安